

令和2年度 事業報告書

【令和2年4月1日から令和3年3月31日まで】

社会福祉法人 鶯鳴会
多機能型事業所

1. 事業所の名称 生活介護 KoBo れもんぐらす
2. 所在地 三重県名張市西原町 2590 番6、2590 番8
3. 職員体制

| 管理者 | サービス管理責任者 | 生活支援員 | 看護師 | 調理員 |
|--------|-----------|------------------------------------|--------|--------|
| 1名 | 1名 | 22名 | 1名 | 1名 |
| 他事業を兼務 | 他事業を兼務 | 常勤・専従 4名 常勤・兼務 7名 非常勤・専従 11名 | 非常勤・専従 | 他事業を兼務 |

4. 営業日ならびに営業時間

| | |
|---------------------|--|
| 事業所 | 【毎週月曜日から金曜日、祝】 午前 8 時 30 分から午後 5 時 30 分 |
| 利用者の利用日ならびに 利用時間 | 【毎週月曜日から金曜日、祝】 午前 10 時 00 分から午後 4 時 00 分 |
| 休所日 | 土日・年末年始 |

5. 定員 25名
6. 契約人数 27名 (R3. 3. 31日現在)
7. 利用者送迎 希望によりドア to ドアの送迎を行った。(27名中 24名が送迎利用)
8. 年間利用状況

| 年度 | 開所日数 | 利用平均人数 | 延べ利用人数 | 利用率 |
|-----------------|----------------|------------------|------------------|------------------|
| 令和2年度 (令和元度) | 257日 (264日) | 24.6名 (25.1名) | 6327名 (6585名) | 91.2% (87.2%) |

9. 利用実績

(利用平均人数：小数点第2位四捨五入)

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 年間 |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 開所日数 | 22 | 21 | 22 | 23 | 21 | 22 | 22 | 21 | 20 | 20 | 20 | 23 | 257 |
| 利用人数 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 27 | 27 | 27 | |
| 利用延べ人数 | 538 | 510 | 554 | 564 | 489 | 547 | 549 | 517 | 503 | 485 | 489 | 582 | 6327 |
| 利用平均人数 | 24.5 | 24.3 | 25.2 | 24.5 | 23.3 | 24.9 | 25.0 | 24.6 | 25.2 | 24.3 | 24.5 | 25.3 | 24.6 |
| 新規契約者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 契約終了者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |

※契約終了理由・・・体調不良のため

10. サービス内容

- ◎生活援助・・・食事、排泄、入浴、衣類の着脱の際に利用者の心身状況に応じて、適切な技術をもって介護を提供し、また、必要に応じて看護師等がリハビリ等を行った。
- ◎活動・・・歩行訓練及びリハビリに加え、マシンを使用し運動不足解消を目的としたトレーニングを行った。また、外出活動・音楽活動（カラオケ）、レクリエーション等で利用者の方が主体的に活動できるよう支援し、これらを基本とし、さらに就労意欲のある利用者に対しては軽作業を提供し、毎月約15名の利用者が作業に取り組んだ。工賃は下表のとおり支給した。

| 年度 | 工賃支払合計(年間) | 工賃支給者数 | 一人当たりの月額平均工賃 |
|-------|------------|--------|--------------|
| 令和2年度 | 383,033円 | 162名 | 2,364円 |
| 令和元年度 | 392,522円 | 176名 | 2,230円 |

(参考) 個人の月額平均工賃 ⇒ 82円～6,770円 (利用日数・作業取組時間により変動)

- ◎健康管理・・・1日2回の検温、週に1度の血圧測定を行い、希望者には健康診断とインフルエンザの予防接種を行った。例年通り、手洗い・うがい・アルコール消毒を1日2回(登所時・昼食前)徹底して行い、飛沫感染を防ぐため全員にマスクの着用を義務付けた。9年連続ノロウイルス、インフルエンザに感染した利用者はいなかった。さらに、新型コロナウイルス感染症予防のため土曜日のイベントは中止とした。
- ◎給食・・・バランスのとれた献立かつ個々の食形態(普通食・きざみ食・ミキサー食)や体調に合わせた食事を提供し、食事中に喉を詰まらせるなどの事故は一件もなかった。
- ◎送迎・・・希望によりドア to ドアの送迎を行い、車椅子等、移動が困難な利用者に対しリフト付きの車を使用した。また、リフトを使用する際は、安全ベルト・固定金具の声出し確認を行うことにより安全面を徹底し障害により行動に困難を要する方(他害行為等)については職員を増員して対応した。送迎時に車両トラブルが発生したが保護者の方にもご協力いただき事なきを得た。衝突などの事故はなかった。
- ◎防災訓練・・・年に2回(9月、3月)消防署との連携をもち、避難と消火訓練を行った。また、災害発生時の対応について外部講師(名張市職員)を招いて研修(6月)、さらに非常用備品等の見直しも行った。また、消防用設備等又は特殊消防用設備等について、定期(9月、3月)に点検し、その結果を消防長又は消防署長に報告(10月)した。
- ◎防犯訓練・・・年に2回(5月、10月)警察署と連携を図り、不審者侵入対応訓練を実施した。訓練の中で出た課題をクリアすべく対策を改めて練り直したり、来訪者に対し「防犯強化」協力の依頼をしたり職員全員で防犯意識を高めることができた。

11. 総括

令和 2 年度は三重県に提出した「改善計画書」に基づく「工程表」に沿って、情報共有から利用者への支援に至るまで、あらゆる方面において一から在り方を見直し、職員全員が一丸となって“正しさ”を意識しながら日々業務に向き合った。昨年課題として挙げていた「情報共有・周知徹底」については、令和 2 年 6 月より「チャットワーク」という情報共有アプリを職員全員で利用し始め、一度の発信で全職員が情報を共有できるためスムーズに支援に入れたり、検索機能を使って情報の再確認ができるため思い違いによるミスが少なくなったりと、大幅に改善された。さらに、所属している事業所以外の情報も把握できるため、“他事業所との繋がり”が密になり、以前より法人としての一体感が増したように感じる。

また、虐待防止の一環として、“「こんなんでいいのかな？」報告書”を新しく取り入れた。これは虐待認定を二度と受けたくないよう、日常に潜む小さな“虐待の芽”を摘むことで虐待を防止しようという目的を持ち、他の職員の支かと感じた場合は“「こんなんでい援が不適切ではないのかな？」報告書”を書き、法令遵守委員長と主任が事実確認と注意指導を行い、全職員で“虐待の芽”を見逃さない体制づくりに取り組んだ。それにより、「自分自身は何気なく行っていることが他者の目にはそう映らない」と認識でき、自身の言動を振り返ることが習慣化した。

前述のとおり、令和 2 年度は新しい取り組みが多く、変化に富んだ 1 年となった。日々の業務に加えて毎月のチェックリスト、随時開かれる会議など、目まぐるしく時間が過ぎていったが、消極的な意見を言う職員は誰一人おらず、全員が「虐待ゼロ・不適切な支援ゼロ」「明るい雰囲気何でも話し合える環境づくり」という目標を達成できるよう、それぞれができることに懸命に取り組んだ。令和 3 年度も引き続き、利用者の声に寄り添い（※）、支援に関する疑問や問題が生じた場合は直ちに話し合いの場を設け、地道に一つずつ解決することを積み重ね、職員間の前向きで活発なコミュニケーションの促進を目指す。

※利用者の声を反映させている個別支援計画書については、個々の希望に沿った活動や支援を行えるようサービス管理責任者が利用者一人ひとりに聞き取りを行った。話すことが苦手な方に関しては筆談にする、簡単な質問にして答えやすくするなど工夫し、利用者に合わせた方法で本心を引き出すよう努め、本人にとってモチベーションが上がるような内容を盛り込み、希望に満ちた個別支援計画書を作成した。個別支援計画書作成後も、計画に基づいた活動や支援が行えているか本人や職員に確認し、悩みや相談がある場合はいつでも本人の話を傾聴し、最善の方法を探った。